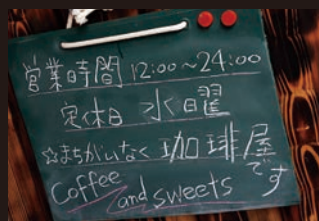


数十年来の「夢」ここに実現!! 旨いコーヒーとスイーツ

そして、バイク大好きな仲間が集う「カフェガレージ」

メンテの最中にコーヒーで小休止、というサンメカは多い。バイク＆コーヒーの組み合わせは、バイク乗りにとってまさに王道のコンビネーション。今から35年以上前にその洗礼を受けた青年は、温め続けた計画を実行に移し、ついに念願のカフェ＆ガレージのマスターとなった。



桜とチーク材を全ねじボルトで締め上げて製作した引き戸は大きくて重く、この状態では何の店舗か分からない。だから黒板で営業時間とともに「珈琲屋」であることをアピール。



表通りから見える黒い鉄の扉はダミーで、ここから出入りすることはできない。RC30がある駐輪スペースを奥に進むと入り口の扉があり、さらにその奥にガレージスペースがある。まさに都会の隠れ家といった印象。



エスプレッソマシンの元祖、イタリア・ベゼラ社のイーグルが存在感を主張するカフェ中心のアイランドが岡さんの仕事場。コーヒーに関するさまざまなエピソードを聞くことができる。



かふえおかがれーじの深煎り豆を板チョコの上に置いた「豆チョコ」。岡さんがいたずら心で用意した新メニューだが、カリッとした歯応えの後に広がる苦みが大好評。自家焙煎だからできる。

右の生豆（なまめ）を焙煎すると、左のような状態になる。焙煎が浅いと酸味が強く、深く焙煎するほど苦みが強くなる。焙煎した豆は酸化を防ぐため、短期間で使い切るのが基本。



細かく挽いたコーヒーを蒸気圧によって抽出するのがエスプレッソ。強い苦みと濃厚な味が特徴だ。回転するドラムに生豆を入れてガス火で煎る焙煎機は、以前、自宅リビングで使っていたもの。



エントランスから突き当たりまで進むとカフェとガレージが一望できるエリアに達する。ここは駐輪スペースであり、ガレージへの入り口にもなっている。バイクをいじりながらコーヒーを飲む、サンメカならではの楽しみがここで実現する。

「かふえおかがれーじ」を開業した岡昌人さんは、高校生時代にバイクで立ち寄った専門店で出逢った一杯のコーヒーに多大なる影響を受け、人生そのものをコーヒーに導かれた人である。高校生には敷居が高く、それでも強く引きつけられて足を踏み入れた神奈川県にある店のコーヒーは、それまで経験したことのない味わいがあり、焙煎や挽き、淹れ方といった作法にも新鮮な発見があった。この偶然の出逢いによりコーヒーの世界に魅入られた岡さんは、その店に通い詰めると同時に自らもコーヒーの知識を深め

コーヒーを片手にバイクいじりを楽しむ時間は、サンメカにとつて至福のひとつであろう。どういうワケか昔から、バイク＆コーヒー＆タバコはバイクシーンに不可欠な3点セットとして多くのライダーに親しまれてきた。今や男性の喫煙率は40%を下回り、それでもスモーカー族は肩身の狭い状況になっているが、コーヒーに関しては缶タイプ、インスタント、レギュラーとタイプの違いはあれど、時代にかかわらず人気を保ち続けている。

東京都品川区で今年9月、「かふえお

抽出したエスプレッソにひと手間加えて、カップのアイスに注いだ途端にゼリー状に変化する「エスプレッソ・ゼリー」がかふえおが一番のオススめ。エスプレッソ付きで800円。



イタリアのジノリやドイツのマイセンなど、選りすぐりのカップ＆ソーサーもコーヒーを楽しむ重要な演出要素。世界展開のコーヒーショップや街の喫茶店では味わうことができない上質感だ。

それと並行して2000年には自宅にバイク用ガレージを作り、バイクいじりをしながらコーヒーを飲む、あるいは逆にコーヒーを飲みながらバイクいじりができる環境を実践し、バイク仲間がガレージに来るたびにコーヒーを振るまつた。バイクとコーヒーはそもそも相性の良い組み合わせだから、缶コーヒーではなく本格レギュラーコーヒーが飲めるとなれば評判となるのは当然で、ますますカフェ開業への夢は膨らんでいった。40代で教師を辞めてカフェをオープンするという目標からは若干遅れたものの、カフェとガレージを一体化できそうな場所を確保して、いよいよ開業に向けた準備に取りか掛かったのは2年ほど前。元

ていった。そして「将来はカフェのマスターになって美味しいコーヒーを提供する」という明確な目標を定めたのだ。大学卒業後は小学校の教師となり教鞭をふるいながら、ある年の卒業アルバムでは児童と共に書いた将来の夢に「カフェのマスター」と記し、また別の年のアルバムにはサーキットで転倒して骨折した腕を三角巾で吊った姿で登場するなど、バイクとコーヒーの趣味を続けた岡さん。業務用焙煎機を自宅2階に設置して生豆の種類や煎り具合による味の違いを試したり、カフェマスターに向けての地道な独習を繰り返した。

住宅街の中で大きな看板も出していないかふえおかがれーじだが、バイクやクルマの仲間やコーヒー好き、夢を叶えた岡先生に会うためにかつての教え子たちも訪れている。営業時間は平日14〜24時、土日祝日は12〜24時なので、仕事帰りにバイクやクルマで立ち寄る人も多い。表通りに面していない駐輪スペースにバイクを入れれば、バイクにキーを付けっぱなしでも大丈夫という隠れ家感も魅力だし、これからの時期はナイトランで冷えた体を温めるのにも、岡さんのコーヒーは最高の一杯となるだろう。長い間入念に準備を行い、カフェのマスターという夢を現実にした岡さん。次ページではカフェと一緒にメンテナンスを楽しめるバイクいじりのためのガレージスペースを覗いてみよう。

工務店というビルの一階部分のスペースに合わせて厨房やカウンターのイメージ図を描き、桜やチーク材を使って家具を製作。カウンター席だけでこじんまりとしながら、店の中心に備え付けられたエスプレッソマシンとマスターの岡さんと適度な距離感が保たれたレイアウトは、高校生時代から今も交流が続くコーヒー店のイメージを踏襲したもの。落ち着いたイメージを醸し出しつつも、壁や天井、トイレに至るまであらゆる場所に岡さんの遊び心が発揮されている。



ベンチ下部にはヘルメットやウエストボーチを収納できるスペースを設けた。当然これも岡さんの作品。コーヒーを提供するのはもちろんだが、自分のカフェを作る過程も楽しんでいたのだ。



入居する物件を念頭に、スケッチブックに描いた内装デザイン。実際の店舗もほぼイラスト通りになっているのが凄い。収納容量の大きなキャビネットも、自筆イラストから製作した。



PART 16

コーヒーを飲みながら バイクいじりを愉しめる



向かって左側のビル壁面、右側のブロック塀と壁面を供用する
のようにピッタリ密着して建て
られたスチールガレージ。確か
にこの立地だと、内部から壁面
の施工ができる製品でなければ
ここに建てられない。



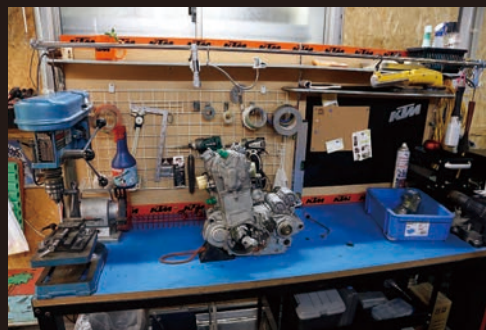
ガレージ本体の左右フレームに
角材を橋渡しにして、エアホス
リールをビス止めしている。板
厚の薄い壁面よりガッチリ取り
付けられ天井部分の空間の有
効活用になっている。



ガレージだから工具があるのは当然だが、これらは
全て岡さんの私物である。コーヒーを飲めばメンテ
して OK といっても、基本的には岡さんのガレージ
を借りるという意識で使わせてもらおう。



ステンレス製のワイドキャビネットの中にはハンド
ツールやエアツールが大量に収納されている。使い
慣れた工具で作業したいというサンメカは、工具
持参で訪れてもよいだろう。



アストロプロダクツの作業台の
上にはボール盤や双頭グライン
ダーなどが置かれている。スペー
スのには4ミ二用エンジンを分
解組み立てするのも楽勝だが、
空気を読んで行動したい。



◎「かふえおかがれーじ」マスター
岡昌人さん
Masato OKA

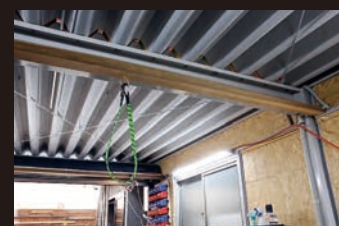
長く教師の仕事を続けながら、ずっ
と公言してきた「カフェのマスター」と
して社会人再デビュー!? を果たし
た岡昌人さん。バイク好きで人好き
で大好きで話し好きという、客商売
に打って付けのキャラクターで早く
も常連客を獲得中。コーヒー好きも
バイク好きも大歓迎のことだ。



作業台には頑丈なベンチバイスが固定されている。
フロントフォークの分解組み立てや切断作業を行
う際に両手が使えるバイスは、自宅で作業を行う
サンメカも常備したい必須アイテムである。



コンプレッサーはホームセンターで購入した 100V
のツインリンダータイプ。エアタンクが大きいので、
洗車時に付着した水滴をエアブローし続けても余
裕がある。



スチールガレージに何かを固定しようとするれば、タッ
ピングビスかボルトナットが必要となる。しかしツ
バイフォー材を1本渡すだけで、木ねじやヒートン
やヨートなどを簡単に施工できるようになる。

カフェに併設されたガレージは、岡さ
ん自慢のコーヒーやケーキを味わったラ
イターやサンメカが自由に活用できる
スペースである。自由といっても、キャブ
セッティングでエンジンをガンガン回し
たり、足回りを外した亀の子状態で帰れ
なくなっちゃった……といった作業をす
べき場所ではない。あくまでカフェが主
で、ガレージ作業は従だと認識したい。
だからといって、このガレージが雰囲気
優先というわけではない。ここでは実際
に岡さん自身のバイクをメンテしてい
るし、ハンドツールやエアツール、立派な作
業台もあるから、やろうと思えば大が
かりな分解整備だって可能である。
カフェが入居するビルと敷地境界のブ
ロック塀に両サイドをピッタリ挟まれた
場所にガレージを建てるにあたり、一
般的なスチールガレージは壁の外側に作

業余地が必要だが、それではスペースに
無駄が出てしまうので「内側から建て
られる製品を選ぶ」ことが重要な条件
だった。いくつかのメーカーに問い合わせ
た結果、ヨドコウだけがその条件をク
リアしていることが分かり、見ての通り
ドンピシャのスペースに収めた。
間口2400×奥行き5800mmのガ
レージ内部はスチールのままでは味気
がないため、内装にはOSB合板を貼る
ことで趣味の雰囲気溢れたウッドデ
ィな空間を作り出している。作業台やツ
ールキャビネット、コンプレッサーなどのガ
レージツールを併せてもらうことも
可能だが、ここには岡さんのバイクも収
納されているので、実質的にガレージ内
で作業できるのは1、2台というところ。
コーヒーを飲みながらメンテできると
なると、いじり好きのサンメカだとい
い長居したくなってしまうところだが、オ
イルやグリスにまみれた手でコーヒーカッ
プを持つのは明らかにマナー違反だ。マ
スターの岡さんや多くのお客さんが長
く楽しめるよう互いに譲り合い、節度
を守って活用したい。